

平成30年度 社会福祉法人福浜会あにまあと
障害児通所支援(児童発達・放課後等デイサービス)評価

利用者(保護者)アンケート 14名回答

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見
環境・ 体制整備	①	こどもの活動等のスペースが十分に確保されている	14	0	0	
	②	職員の配置数や専門性は適切である	12	1	1	・あやしい人もいる。
	③	設備等はバリアフリーの配慮がなされている	13	1	0	
	④	生活空間は清潔で、心地よく過ごせる環境になっており、こどもたちの活動に合わせた空間となっている	14	0	0	・床暖房や、こどもに合った設備にしてくれてあり、感謝しています。
適切な支援の提供	⑤	こどもと保護者のニーズや課題を理解した上で、個別療育計画が作成されている	13	1	0	
	⑥	個別療育計画に沿った支援が行われている	13	1	0	
	⑦	活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	12	2	0	
	⑧	他事業所や、障害のないこどもたちと活動する機会がある	8	6	0	・地域交流会や多年代と関わる機会があり、本人の刺激となっています。
保護者への説明等	⑨	運営規定、支援内容、利用者負担等について丁寧な説明がされている	13	1	0	
	⑩	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われている	9	5	0	・ちょっと意味がわからない。
	⑪	日頃から情報交換ができ、発達状況や課題について共通理解ができています	11	3	0	
	⑫	面談、育児に関する助言等の支援が行われている	13	1	0	
	⑬	保護者会等の開催等により、保護者同士の連携が支援されている	6	8	0	・保護者会が開催されていても参加できていないためわかりません。 ・保護者会というのは参加したことがないですが、他のお母様方とお話しする機会があり、助かっています。
	⑭	相談、申し入れ等には迅速かつ適切に対応している	14	0	0	・いつも無理なお願いに対応していただき、ありがとうございます。
	⑮	こどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされている	13	1	0	
	⑯	定期的に会報、ホームページ等で活動概況や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を発信している	11	3	0	
非常所等の	⑰	個人情報に十分注意している	14	0	0	
	⑱	緊急時・防犯・感染症等のマニュアルを策定し、保護者に周知、説明している	9	5	0	
満足度	⑲	非常災害に備え、定期的に避難訓練等が行われている	7	7	0	
	⑳	こどもは通所を楽しみにしている	14	0	0	・安心して過ごせる場所の1つになっています。いつもありがとうございます。 ・生活リズムがしっかりして、通所の日目は目パッチリでした。
	㉑	事業所の支援に満足している	14	0	0	・活動の写真や製作物を提供してくれ、ありがたいです。

平成30年度 社会福祉法人福浜会あにまあと
障害児通所支援(児童発達・放課後等デイサービス)評価

職員アンケート 4名回答

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員は児童活動室等スペースに対して適切である	1	3	0	・人数が多いときには複数の部屋を使用している。
	②	職員の配置数は適切である	1	3	0	・職員の配置が手薄になってしまうときがあるため、協力・声掛けが必要。
	③	設備等はバリアフリーの配慮が適切になされている	1	3	0	・段差(小上がり)があり、比較的動きのとれる利用者さんにとってはバリアになっていることもある。
	④	生活空間は清潔で、心地よく過ごせる環境になっており、子どもたちの活動に合わせた空間となっている	3	1	0	
業務改善	⑤	業務改善のためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	2	0	
	⑥	保護者用の評価表を活用し、保護者等の意向の把握、業務改善につなげている	3	1	0	
	⑦	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公表している	3	1	0	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2	1	
	⑨	職員の資質向上のため、研修の機会を確保している	4	0	0	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別療育計画を作成している	4	0	0	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るため、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1	0	
	⑫	個別療育計画には、ガイドラインで示す内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、具体的な支援内容が設定されている	3	1	0	・ガイドラインに沿っての作成は不十分だと感じる。
	⑬	個別療育計画に沿った支援が行われている	4	0	0	
	⑭	活動プログラムの立案はチームで行っている	1	3	0	・個別支援がベースとなっており、集団プログラムは立案していない。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	2	2	0	・そのときの子どもたちの様子に応じて、臨機応変に活動を行っている。
	⑯	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	0	3	1	・全体の活動としては決めているが、きめ細やかにまでは決められていない。 ・その日毎の課題設定は不十分。

	⑰	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる	3	1	0	・個別活動がベースのため、集団活動はあまりない。
	⑱	支援開始前には、職員間で必ず打ち合わせをし、支援内容や役割分担について確認している	1	3	0	・人数が多い日などは話し合って役割等決めている。 ・毎日ではない。
	⑲	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	0	3	1	・その都度気になることがあれば話し合うようにしている。 ・活動終了後は打ち合わせをする時間が持てない。
	⑳	正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	1	0	
	㉑	定期的にモニタリングを行い、個別療育計画の見直しの必要性を判断している	3	1	0	
	㉒	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	0	3	1	・地域交流の機会の提供がなかなかできていない。 ・ガイドラインへの意識は不十分。
関係機関や保護者との連携	㉓	サービス担当者会議には、そのこどもの状況に精通した最もふさわしいものが参画している	1	3	0	
	㉔	地域の保健、行政、医療、障害福祉、保育、教育機関等との連携(情報共有、連絡調整)を適切に行っている	2	2	0	
	㉕	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、こどもの主治医等との連絡体制を整えている	2	2	0	
	㉖	移行支援として、保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所、小学校、特別支援学校等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	1	0	
	㉗	学校を卒業し、障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、支援内容等の情報を提供している	2	2	0	・該当ケースがない。
	㉘	児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	1	1	
	㉙	保育所、認定子ども園、幼稚園、放課後児童クラブ、児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	0	4	
	㉚	地域自立支援協議会等へ積極的に参加している	2	1	1	
	㉛	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、発達状況や課題について共通理解を持っている	2	1	1	
	㉜	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	0	3	・支援についての相談はする。 ・ペアレントトレーニングの研修受講者や知識のある職員がいない。

保護者への説明責任等	③③	運営規定、支援内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	1	0	
	③④	ガイドラインが示すねらい及び支援内容と、これに基づき作成された個別療育計画を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別療育計画の同意を得ている	2	2	0	・ガイドラインを示しての説明は行っていない。
	③⑤	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	1	3	0	・できるだけ保護者の声に耳を傾けるようにしている。
	③⑥	保護者会等の開催により、保護者同士の連携を支援している	0	1	3	・現在、保護者会はない。
	③⑦	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合には迅速かつ適切に対応している	2	2	0	・システムを保護者が周知していないと思われる。
	③⑧	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信している	1	3	0	・3ヶ月に1度発行しているが、必要な情報が網羅されているとは思えない。
	③⑨	個人情報には十分注意している	4	0	0	
	④①	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	0	
	④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	0	2	・地元住民との交流がない。
非常時等の対応	④②	緊急時・防犯・感染症等のマニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	1	3	0	・マニュアルはあるが、周知できていない。
	④③	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	2	0	・訓練は実施しているが、児童がいる時間帯に行っていない。(生活介護事業と合同で行っている。)
	④④	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を把握している	4	0	0	
	④⑤	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	0	
	④⑥	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別療育計画に記載している	2	2	0	・身体拘束該当なし。
	④⑦	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	2	1	・該当者なし。
	④⑧	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	1	1	・過去のヒヤリハットは見返している。

～利用者(ご家族)アンケート・職員アンケートを実施して～

平成30年5月より新事業所となり、スペースも職員配置も充実した。利用者(ご家族)の満足度は高まっているが、細部に目を向けると、緊急時の対応(災害・感染症等)についての情報の不透明さや、家族支援についての不十分さ等が垣間見える。また、「職員の資質」について、疑問に思っている方もいた。

今まで、事業所の様々な情報については、聞かれたらお答えをするといったことが多く、ご家族も疑問に思っているにもかかわらず聞くことができずにいるため、このような結果になったのではないかと思われる。障害児支援のスペシャリストとして、職員の資質を高めていくのはもちろんのこと、様々な情報については事業所から発信していく努力が必要であると考えます。

児童発達支援ガイドライン・放課後等デイサービスガイドラインについては、支援の基本となるため、全職員の周知が必須である。そのため、職員研修等で読み合わせ・検討をし、より良い支援を行えるようにしていく。一つ一つの支援に対しねらい(根拠)を設定し、明確な課題設定ができれば良い。

そして、地域交流については、新事業所となってからはほとんどといってよいほど行っていなかった。「地域に根ざした事業所」を目指すのが当法人の理念であるため、地元住民や地域の幼稚園・保育園・こども園、学校とも、積極的な交流を行っていくことが重要と考えている。それが子どもたちの社会性を広げるきっかけとなれば良いと考える。